

多宝会新聞

洗練された建築デザイン

平成18年11月の設立以来、近隣の建物によってペールに包まれていた「まちなか宝生園」の施設デザイン。その約8割にあたる外観が、この度13年の月日を経て、ようやく陽の目を見た。

これまで、まちなか宝生園の主たる建築デザインは、平和通りに面した北側の姿がそれにあたると思われてきた。設立当初は「こんな姿が多すぎて大丈夫ですか？」



等の疑問を投げかける人も多く存在した。それもそのはずである。まちなか宝生園の北側(平和通り方面)は、建築デザイン上「裏面」にあたるのだ。となれば当然「表面」は施設南側(中町方面)となる。ではなぜ建築基準法で定められた「居室の採光」によるもの

発行所
社会福祉法人多宝会
本部事務局広報室
福島市本町4-23
024-522-6611
mail
honbu@
tahokai.
jp

で、高齢者施設等の居室や共用部分は「採光上有効な開口部を設けなければならぬ」とされておられ、さらに一般的に建物は「北側に水回り等、南側に居室」という配置にすることにより光を取り込み易くするという定石があるのだ。よってまちなか宝生園の建築デザインは、北側(平和通り方面)に窓が少ない裏面、そして南側(中町方面)に窓が集積しているデザインの表面が来ることとなった。

ところが、この南面には3棟の大小の建物が林立しており、せつかくの建築デザインの表面がペールで覆われてしまっている状況となっていた。しかし今年に入り、南側3棟の中でも最高層の建物であった「旧山口家具店」様が、新たな建物の進出に伴い解体され、13年の時を経て、まちなか宝生園の建築デザインのほぼ全貌が明らかとなった。

その姿は旧4号国道からも視認することができ、行き交う車の車内からも確認することができる。東西ツインタワー構造で80床の居室が収まり、その中央にはセミパブリックスペースも兼ねる渡り廊下、そして屋上緑化された中庭と「デザイナーズセンター」で買われている。まさに壮観。夜も屋内のライトが施設を彩り壮麗である。

恐らくこの外観を拝せるのは、新たなビルが建築されるまでの数ヶ月しか無いかも知れない。

平成30年度 第2回苦情解決第三者委員会開催

去る2月18日まちなか宝生園(こころホール)において、平成30年度第2回となる「苦情解決第三者委員会」が開催された。本年度下半期に各事業所に寄せられたご意見や申し立て報告に基づき、意見交換が行われた。第三者委員の皆様より、貴重なご意見を頂き、来年度に向けサービスの質の向上を期する、新たな出発の場となった。



第8回理事会

平成30年の一年の努めを振り返り、新しい年を迎えようと、昨年の12月13日、まちなか宝生園(こころホール)において「第8回理事会」が開催された。

始めに加藤理事長より「経営面において安定しているが、職員の皆様に指導、ご鞭撻を賜り前進してまいりたい」と挨拶があった。引き続き、平成30年度中間報告並びに第一次補正予算、業務契約の二件が提案され、各案件について、慎重な審議を重ねた結果、全て原案通り採択され、理事会の一切が終了した。



カタログギフトの寄贈

日本生命保険相互会社福島支社様から、福祉用品のカタログギフト「はつぴいサポートカタログ」を頂いた。ご利用の方が、日々の生活で使える日用品や車いすなど様々な介護用品が選べるようになっていく。

加藤理事長より「ご利用者のために大切に使用して頂く」と感謝の言葉があった。



西地区居宅介護支援事業所連絡会

去る2月14日土湯宝生園会議室において、西部地域包括支援センター主催で、南東北福島病院と土湯宝生園の居宅介護支援事業所が参加し、福島市西地区の「居宅介護支援事業所連絡会」が開催された。

参加者お一人おひとりから困難なケースや進展がみられないケースを報告し、支援の方向性や建設的な意見を発表した。家庭環境や地域事業が複雑化している昨今、地域の介護支援専門員のスキルアップやネットワークの強化が図られた。



法人内研修

安西施設長が講師となり、各施設で「安心安全な入浴」と題して入浴の基本介助動作、入浴中の事故防止だけでなく、入浴前後の体調管理、入浴が与える身体への影響などについて研修を行った。



車両事故防止研修

まちなか宝生園で、介護福祉車両について損害保険ジャパン日本興亜株式会社の方が、実際に福島市内で起きた事故のドライブレコーダーの映像を見ながら、事故防止方法の研修を開催して下さった。



西部地区包括支援センター 各地で認知症サポーター養成講座開催

昨年の12月18日半澤保健師、安藤認知症地域支援推進員が荒井小学校6年生20名と教員1名に講座を開催した。認知症に関する事を、寸劇やクイズ形式等により、小学生に分かりやすく講座を行った。認知症の症状に驚く声や、笑顔も見られ、和やかな雰囲気で行われた。小学生に受け入れるかどうか不安があったとのことだったが、終了後のアンケートでは「良く理解できた」との感想があった。

荒井小学校にて開催
井小学校6年生20名と教員1名に講座を開催した。認知症に関する事を、寸劇やクイズ形式等により、小学生に分かりやすく講座を行った。認知症の症状に驚く声や、笑顔も見られ、和やかな雰囲気で行われた。小学生に受け入れるかどうか不安があったとのことだったが、終了後のアンケートでは「良く理解できた」との感想があった。

アリヴァール宝生園にて開催
昨年の12月25日半澤保健師がアリヴァール職員9名に対し講座を開催した。認知症の症状だけでなく、脳の働きや仕組みなどを説明した。受講者からは、認知症と脳の関係性がとても勉強になったとのこと。また、今後も定期的に受講し、施設の職員としてだけでなく、認知症サポーターとしての役割も担っていきたいと話があった。



桜梅桃李

今年、平成という時代が約30年に及ぶ激動の歴史を紡いで終焉を迎え、新たな元号とともに新時代がスタートする意義深い佳節となる▼被災三県はもとより日本国そのものに甚大なる被害をもたらした東日本大地震からは丸8年の時を刻み、各地各人が新たなステージへと駒を進める年でもある▼多宝会は平成9年に創立した。およそ平成の三分の二の時と歴史を歩んできたことになる。まさに平成という時代に生まれ育まれた法人である▼多宝会の淵源の地でもある土湯温泉にとつて今年には激動の年を迎える。8年に及ぶ復興・再生活動の「第一期終着点」は、温泉と水を活用した再生可能エネルギーの設置と稼働であった。そして本年「第二期終着点」を迎え、一連の廃旅館・空室などの再生が完結。数々の新しい観光拠点が産声をあげ、観光イベント等も新時代に相応しい内容に刷新されるという。まさに希望に溢れた「ルネサンス期」と言えよう▼一方では「少子高齢・人口減少」の濁流がより一層勢いを増していき、暴走するSNS、弱者への虐待、分断する世界。明るい話題ばかりでもないのが現実だ▼多宝会もまた時代の転換期にあつて、ますます大きな使命感に立ち、新時代に「適応」して「進化」を続け、支援を必要とする方々の手足となつて働いていかなければならない▼新たな元号のもと、新時代が「希望」に満ち溢れんことを願い、我らの手で「希望」を創らんとを決意したい。

多宝会のロゴマークは漢字の心の文字をデザインしました。人としての振る舞いは心の働きによることから、その在り方こそが大切であると考えています。貴は奉仕、育は信頼、赤は勇気を表しています。

施設の話題をいち早くお届けする

多宝会ホットライン

多宝会の基本理念は「日々に心・日々に信・日々に新」を掲げています。誠実な心と行動によって信頼が築かれ安心の日々をお過ごしいただけると考えています。スタッフ一同、明るく、優しく、朗らかに、一日一日を大切に、人と地域を元気にしたいと思っています。

土湯宝生園

ケア喫茶

クリスマスも近づき、ケア喫茶が開催されました。種類豊富な飲み物とケーキパイキング、目の前で焼くクレープ、フランスのお菓子「シュゼット」と、彩られた白いお皿は参加された入居者様のお腹も心も満たした様子でした。



デイサービスのクリスマス

今年は趣向を凝らして、クリスマスツリーパンを作りました。パンをこねる段階から始め、チョコや粉砂糖でトッピングし作りしました。出来上がりも大満足のご様子で、皆さん美味しい美味しいと話されながら、べろりと召し上げられました。



ケアハウス忘年会

入居者様の目の前で催されたライブキッチン。揚げたてのてんぷら、打ち立てのそばは最高でした。入居者様による物当てクイズ(箱の中身はなに?)も盛り上がり皆さん豪華な景品をゲットされていました。



ケアハウス新年会

東京から寿司職人を招き、寿司パイキングでした。余興では、ボランティアで来てくださった「梅マジョリン」のマジックショー、職員による大正琴の演奏、最後は土湯賛歌の合唱で締めとなり、大盛り上がりでした。



デイサービスのバレンタイン

今年は餃子の皮で餡子を包んだものを、茹でました。八橋風のお菓子ができ、林檎、さくらんぼ、抹茶アイスなどをトッピングしました。飲物は職員が抹茶をたてました。皆さん、笑顔で頂いていました。



アリヴァーレ・ほのぼの宝生園

クリスマス会

各ユニットでクリスマス会を行いました！ギター演奏や美味しそうなお菓子、可愛いクリスマスカードのプレゼントもありユニットそれぞれ個性あふれるクリスマスになったようです。



さつま芋試食会

秋に宝ファームから収穫したさつま芋の熟成期間が終了したため試食会を行いました。魔法のアルミを使用してやきいもを作りました。今年もいよこしでした！甘くほくほくした焼きいもを美味しく頂きました。次はどんな風に食べようか考え中なので楽しみに！



ほのぼので馒头作り

黒糖まんじゅう作りを楽しみました。手作りした皮でこしあんかつぶあんの、どちらかを選んでいただき、おまんじゅうの形にしました。蒸した熱々のおまんじゅうをお茶と一緒に頂きました。ふわふわな蒸したてお馒头を食べると心も身体も暖まりました。



新年会でもちつき

新年会で餅つきを行いました。西部地域包括の安藤さんにも参加していただき、迫力あるもちつきになりました。つきたてのお餅は、さくら婦人会の方々にお手伝いをしていただき、餡子みたらし、お雑煮にして、美味しく頂きました。つきたてのお餅は、柔らかく最高でした。



まちなか宝生園

忘年会

忘年会を行いました。紅白歌合戦の形式で、歌唱やコント、ダンスなどを職員が披露し、ご利用者と職員の子供達も加わり、飾りつきのうちわやペンライト等で盛り上げていただきました。ご利用者、職員一体となって、笑顔いっぱいの忘年会を行うことができました。



デイサービスの忘年会

今年も紅白に分かれて運動会を行っています。紅白のハチマキをつけ応援団長が「がんばるぞー」と掛け声をかけ、お手玉入れとパン食い競争を行いました。最後はお楽しみのビンゴゲーム。笑い声で一年を締めることができました。



デイサービスの節分

赤鬼は厄払い、青鬼は幸福が自分にくるとということで、皆さん大興奮で大量の豆を鬼にぶつけていました。思いっきりぶつけたことで「気持ちがあすっきりした！今年も良い年になりそう！」と大満足な顔でしたが、鬼も満足でした！



まちなか宝生園名物サンタ

まちなか宝生園デイサービスを利用されていた「板倉雅信様」。毎週ボランティアに来て下さいます。一人ひとりに優しく声を掛けプレゼントをお渡し下さいました。クリスマスソングとちょっと早いお正月の歌で盛り上がりました。



宝寿木村屋

クリスマス

各ユニット毎にクリスマス会を行いました。それぞれ内容を考えて楽しい時間を過ごしました。ケーキを手作りしたり、お菓子の詰め合わせやレッグウォーマーなど職員からのプレゼントがあり、大変盛り上がりしました。



餅つき

臼と杵を使い、本格的な餅つきをする事ができ、皆さん喜んで頂きました。雑煮餅など調理は利用者の皆さんにもお手伝いしてもらいおいしいお餅をたくさん食べる事ができました。また、来年を楽しみに。



土湯の行事「かせ鳥」

土湯温泉町の行事「かせ鳥」。今年も、可愛い子供達が「コッコッコ」と元気に木村屋を訪ねてくれました。ご利用がお菓子を渡して握手をしました。子供達の笑顔はもちろんですが、ご利用者の皆様も目じりが下がればなしでした。



つるし雛

職員のお婆様手作りのつるし雛を1階ホールに飾りました。早速お茶会をしながら、彩りいろいろなつるし雛を鑑賞し癒されました。外はまだまだ寒いですが、施設の中はちょっと早い春でした。



各種ご相談は各施設までお気軽にどうぞ、見学等も随時お受けしております。

土湯宝生園	024-594-5900	西部地域包括支援センター	024-594-5800
アリヴァーレ宝生園	024-594-0061	土湯宝生園指定居宅介護支援事業所	024-594-5902
ほのぼの宝生園	024-594-0063	湯ったりデイサービス	024-594-5900
まちなか宝生園	024-521-1122	法人本部事務局	024-522-6611
宝寿木村屋	024-594-5122	URL	http://www.tahokai.jp



こころ 心美のささやき

さあ！新年号は何になると思いますか？巷ではこの話題で持ちきりの様です。多分「安永」想です。多分「安永」じゃないかしら。話しは変わって、目はウルウル、鼻水スビスビ、喉も痛い。皆様、花粉症にはご留意を。